

平成29年度 和光市立白子小学校 第4回学校運営協議会 議事録

平成29年9月19日（月）
午前10時30分～午前11時50分
和光市立白子小学校 PTA 会議室

出席者 鳥飼 昭男委員、富澤 昭憲委員、牧 江利子委員、榎本 克実委員、金井 良浩委員
富澤 隆司委員、久保田砂苗委員、中村 哲委員
西 貴美雄、坪谷 孝雄（10名）

1 開会のことば（教頭 坪谷 孝雄）

2 学校長あいさつ（校長 西 貴美雄）

3 報告

- (1) 前期児童アンケート調査結果について
- (2) 地域の道徳アンケート調査について
- (3) 平成29年度新体力テスト結果について
- (4) 全国及び県学力・学習状況調査検証結果等について
- (5) 第2学期の学校運営計画について

4 協議（進行…会長）

(1) 学校地域との連携について

校長より次のように説明し、委員よりご意見をいただく。

「2学期はコミュニティ・スクールの理念をより本校に取り入れていくために地域の皆様の教育力を学校に役立てていただきたい。4月の学校応援団総会時に今年度の大まかな計画を立てているが、今後の取組も含めて本校の教育計画にゲストティーチャー等を位置付けて次年度に備えていきたい。1学期に6年生が総合的な学習の時間で学校の歴史を調べた。地域には、学校をよく知る方がたくさんいらっしゃる。ご来校いただければ子ども達の学びは深くなり、地域に対する愛着も培われる。更に、地域の方々との交流も深まる。本日から6年生が市内陸上競技大会の練習を始める。地域にお手伝いしてくださる方がいらっしゃれば、子ども達との結びつきも強くなっていくのではないだろうか。学校にとっても地域にお手伝いをしてくださる方がいれば安心感にもつながる。6年生では、職業を知る学習にも取組む。ご協力をお願いしたい。また、3年生の総合的な学習の時間では、「地域の名人を探そう」という学習に取組む。明後日には、急遽4年生「地域の安全を守る」学習に運営協議委員の方のお力も貸していただくこととした。学校の中に地域の方にお越しいただく。これを通して、子ども達と地域の方を結び付けていく、システムができあがれば今後も続いていく。学校としてこのような取組をしている。協力をいただきたい。」

◇名人の案内は、私のところにもきている。昨年も参加したので、今年もきたのだらう。

◇6年生の作品の中に文化偉人として大石真と清水かつらが出ている。大石真は白子小学校の卒業生である。私たちの自治会にかつて住んでいた。大石真や清水かつらについては、毎年子ども達に話をす

るなど教育計画に位置付けていくことが地域との関わりの面でもよいのではないかと。地域には、大石真や清水かつらに詳しい人もいます。子ども達にも知らせて継承していくことが大切であろう。

◇学年を特定して学んでいく方法もある。年に1回でも行っていくとよいだろう。

◇急な依頼であったのは事実だが、学校近隣で火災があったこともあり、日常の消防団の活動に目が向けられたのだろう。日常は各自仕事をしていて、火災があった時に出勤する。保護者も活動している。子ども達にうまく伝えられるとよいと思う。普段の活動をPRしていきたい。これからもできることで貢献していきたい。

◇大石真、清水かつらについてはDVDでもよいし、読み聞かせでもよい。学習を進めて地域を知ってほしい。子ども達とのふれあいもできるとよい。

◇学校が主体となって地域に求めるものが多いが、学校から地域の行事にきていただく。先生だけではなく子ども達も、例えば、地域の防災訓練などに高学年の児童が参加する。学校から地域に関わりを持ってくることを提案できるとよい。

◇学校がエリアの自治会の代表である。7月に校庭で運動会を行った。夏休みに昔は潮干狩りに行っていた。取組みは百年ぐらい続いているらしい。年末には、校庭でもちつき大会。城山地域センターでのイベント。3月にはさくらまつりがあるので大勢の方も見える。活動の中で、互いに顔見知りになってくることもあるだろう。少ない活動を通してふれあいはできていると思う。子ども達の様子も拝見したが、参観していても楽しい。子ども達がまとめたパンフレットも見たが、卒業生である私も知らないことが記されている。近隣には、初代校長の記念碑も立てられている。校内には、尋常小学校時代の石碑もある。地元の間でも知らない人も多い。半年間委員を務めてきて私もずいぶん勉強することが多かった。子ども達の通学も気にすることはほとんどなかったが、気にするようになった。家の前に東武バスの停留所がある。歩道が2mぐらいあるところだが、夜、歩道の真ん中にバス停を動かす者がいる。東武バスに連絡して、9月1日に埋め込みしきにしてもらった。通学路でもある。先日、針金を1mぐらいの高さに張るという事件があった。金網と電柱の間にビニルテープが張ってあることもあった。関係機関にも連絡して、地域でも子ども達の安全を守る取組を進めている。

◇地域の人の力が生かされることは学校教育の外の部分だろう。高校2年生の子どもは小学校3年生の時に会った地域の名人のことをまだ覚えている。学校の先生からはなかなか教えていただく機会がない体験をたくさん受けるとよい。陸上にしても職業にしてもまずは学校でのきっかけだろうが、体験した子ども達が自ら学習を発展させていくきっかけをつくれるよう、地域の人のいろいろな財産をつぎ込んでいただけるとよい。

◇地域からは普段いろいろなことを教わっている。地域の方から教えていただける機会は貴重だろう。

◇いつもあいさつをしてくださる方が陸上等で助言をしていただけると子ども達のその方に対する見方も変わっていく。そのようなきっかけ、チャンスが多くあるとよい。

◇国や県の児童アンケートからは、地域でのボランティアが少ないという傾向がみられた。市ではごみゼロ運動を実施している。この地域でも、このような活動に参加していけるとよい。最初は、地域住民も参加していたが、空き地が少なくなっていることもあり、人数は少なくなってきた。子ども達も一時的に保護者と参加していた時もあったが、最近では少なくなってきた。学校でも、このような活動に積極的に参加するよう促してくれると地域の人との交流が深まる。あいさつ運動は毎学期初めに実施しているが知らない人もまだまだ多いのではないかと。自治連合会等も参加しているが、一部の方々とどまっている。積極的にアピールができれば地域の方々とも顔見知りになるのではないかと。

◇子ども達の防犯活動に参加している。市内小学校の2・3年生対象に教育委員会の協力を得て実施し

ている。私たち市民の先生が市内の学校を回る活動を進めている。白子小学校でも1学期に実施した。子ども達の防犯力を高めることが第一のねらいだが、同時に地域にこれだけの人が子ども達を見守っていることを知らせていきたいと思っている。なかなか地域の方に教室を見学して下さったり、サポートしていただいたりすることが難しい。まずは、様子をご覧いただき、理解していただくことで口コミでも活動に広がりを持たせられるのではないかと。今年度はすでに実施してしまっているが、次回は委員の皆さんにも参観をしていただき、子ども達にこれだけ多くの方々が見守っていることを実感させ安心感を高めていきたい。また、このような活動を通して交流も深まり、あいさつが交わせる関係ができあがっていくのではないかと。

◇私も3年生の学習に名人として協力したい。学校からの依頼もあるので、近隣に適当な方がいらっしゃったらぜひ紹介、推薦していただきたい。

⇒教師が教えられるもの、教師自身が経験していないので教えるににくいもの、委員の皆さんや白子小学校区にお住いの皆さんの力をお借りしたい。大石真さんについて本校では9月最終週に市図書館に依頼してボランティア団体を招聘して作品の読み聞かせをしていただいている。地域の方に大石真さんについて紹介していただくようなことも考えられる。清水かつらについては予鈴として「緑のそよ風」を流しているが、近年、コンサートなどは実施していない。本校では二人の文化人を教育計画にどのように位置づけるのか再考していきたい。学校の歴史を語っていただける方も発掘していきたい。安心・安全な生活を根付かせていくかも課題であり、そのひとつには保護者と地域の方々との交流も考えなければならないだろう。子ども達が地域の防災訓練に参加したり、ごみゼロ運動に参加したりして、子ども達が地域との結びつきを深めていく取組も必要となってくる。あいさつ運動ももちろんのことだ。そのためには、保護者の意識啓発も重要である。学校だけでは限界がある。PTAとも協議しながら検討していきたい。

◇地域と学校とのふれあいの中で、担任の先生の顔が見えない。地域のお祭りなどで交流を図ることはできないものなのだろうか。イベントにあわせて考えてほしい。先生が地域の行事に入ってきて交流を深めることは大事なことはないだろうか。

◇以前には、地域の夏祭りや盆踊りに参加したり、神輿を担いでくれたりしていた。ここのところ下火になっているのではないかと。伴天も校長室にあるはずだ。

◇校長や教頭は地域に顔を出すのが、他の教員は出てこない。

◇校長や教頭以外にも、先生に出てきてもらいたいものだ。

◇学校運営協議会の限界を感じているところがある。何かをやろうとすると保護者の同意も必要だ。地域で活動している団体もある。総合的にひとつの物事をやろうとするとさまざまな組織を横断で刺していかなければならない。学校運営協議会だけでは限界がある話が多々でてくる。地域から言えば国語や算数は教えられない。残されているのは、道徳的なもの、地域になじむにはどうしたらよいのかというような精神的な面であろう。地域の方々や子ども達の交流を図るために手っ取り早いのは祭りや一斉に除草をしたりすることだろう。保護者の同意がなければ活動に限界がある。これらの取組を現実的なものにするためには、関係者からの意見を聴取することが必要だ。このあたりが課題となるので、校長から答えを出してもらいたい。

◇例えば、まつりや防災訓練、ボランティアなどをするためにはどうしても学校が休みの日に実施することになる。保護者の同意が必要だろう。児童とのコミュニケーションをとるためには私たち地域の者はそのあたりを手掛かり活動するしかない。

◇学校の先生の勤務について問題になっていることは承知している。しかし、ローテーションを組むこ

となどで地域のイベントに1年で1回でも参加してもらえると顔見知りにもなっていける。市民団体の中には地域の環境美化について啓発を進めているものもある。学校運営協議会から市民団体に課題を提示して、環境美化や整備に取り組めるとよい。活動の範囲は広がるかもしれないが、何か活動を進めることも大切だろう。活動しながら、できるもの、できないものを選び分けていけばよいのではないか。1年でできるもの、3年かかるもの、いろいろと考えられるが、長期的視野を持つことも大切だ。自治会の立場から考えると、保護者が仕事で忙しく、顔が見えない部分がある。接触することも難しい。昔とは印象が異なっている。時代も変わってきた。時代に合わせて活動ができないか模索中でもある。

5 連絡

- (1) 第2学期学校公開について案内
- (2) 後期予定について(資料参照)

平成29年10月28日(土)

6 その他

◇先日、飛行体が飛来した。Jアラートが鳴り、一部の地域では避難が呼びかけられた。学校では、防災ずきんをかぶり、避難訓練を実施している。報道されると現実感が高まった。埼玉県では、どのように対応しているのか。

⇒マニュアルを整備するよう指示されている。緊急時の避難行動について職員に指示している。避難訓練実施を検討したい。

◇子ども達に北朝鮮の行為について説明しているのか。人権問題に関わるので慎重に進めてほしい。

⇒学校では、教員個人の政治的見解を述べることはさせることはできない。北朝鮮に係る拉致問題について6年生が学習している。

7 閉会のあいさつ(久保田副会長)